

科目名		産業人間工学実習	
科目責任者 森 晃爾		(産業衛生学専攻委員長)	
開講時期: 2年次	単位数: 4 単位	時間数: 90分× 60 回	
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>人間工学領域あるいは心理生理学領域で用いられる生体計測機器・システムの取扱いに習熟する。また、主観的評価手法とその集計方法について学ぶ。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 種々の生体計測装置の取扱いができる。</li> <li>2) 種々の生体計測装置の電極・センサー類の装着ができる。</li> <li>3) 種々の生体計測装置からのデータの取得ができる。</li> <li>4) 種々の生体計測装置で得られた情報の生理学的意義が理解できる。</li> <li>5) 種々の生理的評価指標の人間工学への応用が考察できる。</li> <li>6) 種々の主観的評価指標の人間工学への応用が考察できる。</li> <li>7) 種々の他覚的指標の測定方法が理解できる。</li> <li>8) 生体反応の特性が理解できる。</li> </ol>			
● 評価方法	実習実施状況50%、発表50%で総合評価する。		
● 参考文献	実習の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

内容	担当教員
生体計測機器を用いた実習を通して、それらの機器の取扱方法を習得させる。	
既存の主観的評価手法を紹介し、その使用方法を習得させる。	
疲労の評価を目的とした生体計測の手法を紹介し、その意義を理解させる。	